

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成 25 年度第 4 回高松市子ども・子育て支援会議
開催日時	平成 26 年 3 月 19 日(水) 15 時 00 分～17 時 00 分
開催場所	高松市役所 11 階職員研修室
議 題	(1) 高松市子ども・子育て支援推進計画の構成および施策体系図について (2) 所掌事務の追加および部会の設置について (3) 報告事項 ① 「作業の手引き」に基づく、教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて ② 子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告書について ③ 子ども・子育て支援新制度講演会の開催予定について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	加野会長、佐藤副会長、池畑委員、植松委員、大芝委員、鎌田委員、橋川委員、久保田委員、鈴木委員、樽谷委員、永澤委員、中橋委員、奈良委員、福田委員、藤岡委員、三木委員 計 16 人（欠席 西岡委員、森委員）
傍 聴 者	5 人      （定員 10 人）
担当課および連絡先	子育て支援課子育て企画係 839-2354

審議経過および審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。</p> <p>(1) 高松市子ども・子育て支援推進計画の構成および施策体系図について 高松市子ども・子育て支援推進計画の構成および施策体系図について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>（委員） 資料(1)の3ページについて、新しい「子ども・子育て支援推進計画」の体系図は、現行の「高松市こども未来計画（後期計画）」の体系図を網羅した形になっているのか。例えば、こども未来計画の1-1-1「家庭・地域における男女共同参画の推進」は、推進計画のどこにあるのか。</p> <p>（事務局） 記載が漏れていて申し訳ない。推進計画の2-1-①「地域における子育て支援の充実」や、2-2-③「ワーク・ライフ・バランスの推進」に盛り込んでいく方向で考えている。</p> <p>（会長） 新計画の1-1-①に、「子どもと母親の健康の確保」とある。父子家庭は取り上げられることが少ないが、父子家庭も子育てが大変である内容のテレビ番組等が作られている。父子家庭についてはどう考えているか。</p>

## 審議経過および審議結果

(事務局)

1-3-①を「ひとり親家庭への支援」としている。父子家庭への支援も含め、整理していきたい。

(会長)

新計画の基本方向3に「子どもの成長・子育て家庭」とあるが、「・」より「や」の方が、すわりが良いのではないかと検討してほしい。

(委員)

現行計画の1-3-2「障がい児等の支援」が、新計画では1-3-②「障がいの早期発見と療育体制の充実」になっている。現行計画では大きな枠組みで書かれているのに対し、新計画ではピンポイントでスポットを当てる表現に変わったような印象を持った。何か考えがあって表現を変えたのか。また、障がい児保育や特別支援教育の充実について、言葉としては出てきていないが、1-3-②に含まれていくと考えてよいか。

(事務局)

障がい児支援については、国の方針として全般的な配慮が必要とされている。1-3-②に限らず、障がい児支援に関して盛り込んでいきたいと考えている。

(会長)

表現が変わって、支援が後退していくのではと心配される方もいると思うが、そうではないということのようだ。

(委員)

参考資料の27ページに、アンケート結果として、子育てをしやすいまちだと思わない理由が掲載されている。就学前児童の保護者、小学生の保護者、ともに、一番多い理由が「公園や児童館など子どもの遊び場が少ない」ということである。現行計画の体系図3-1-1では「子どもの遊び場の整備」となっており、新計画では1-1-④「子ども・青少年の居場所づくり」という中に括られているが、「遊び場」を項目として特別に出した方が、アンケート結果をくみ取った分かりやすい体系図になるのではないかと考える。

(事務局)

3-1-③「生活環境の整備」のところも含め、市民ニーズに応じてまいりたいと考えている。

(委員)

「遊び場」という言葉と「居場所」という言葉は、別のものをイメージする人もいると思う。また、「居場所」に言い換えた結果、施策・事業を推進していく中で、違うニュアンスで進んでいく可能性もある。実際、地域によっては、遊び場が少ないという声をよく聞くので、遊び場の整備は強化していかなければならない重要な点だと思う。

(会長)

アンケート調査でこのような結果が出ているので、計画にどう落とし込んでいくかということは、考えなければいけないと思う。

(委員)

「居場所」とはどういう意味なのか。場所的なものなのか、心の拠りどころ的なものを意図しているのか。

(事務局)

物理的な面と精神的な面、両方ある。学校の居場所、地域の居場所など、子どもが健やかで心安らかに成長できる環境づくりという観点から言うと、必ずしも場所だけの問題ではない。子どもを取り巻く大人たちも影響してくると思うので、人間関係の中での居場所ということもある。具体的には、今後、事務局で案を作った後、委員皆様にもご意見いただきたいと考えている。

審議経過および審議結果

(会長)

居場所という言葉の概念を整理するとよいのでは。

(2) 所掌事務の追加および部会の設置について

所掌事務の追加および部会の設置について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(会長)

子ども・子育て会議と、幼保連携型認定こども園に関する審議会は、全く同じ人選になるのか。それとも一部の人が審議会委員になるのか。

(事務局)

高松市子ども・子育て支援会議に部会を設置し、この部会を審議会とする。支援会議の一部の委員が部会に所属し、審議していただくことになる。

(会長)

審議会の人数は、まだ定まっていないのか。

(事務局)

8名程度で考えている。

(委員)

高松市子ども・子育て支援会議と高松市社会福祉審議会児童福祉専門分科会の役割や審議事項は重なり合う部分があるので、事務局案のとおりで良いと思う。

(委員)

審議会と言うと、市の中でもかなり重い位置づけのものになると思うのだが、審議会と子ども・子育て支援会議の位置関係を教えてほしい。

(事務局)

子ども・子育て支援会議と社会福祉審議会児童福祉専門分科会について、前者は子ども・子育て支援法、後者は社会福祉法及び児童福祉法に基づいて設置されており、どちらの法律が重いかという話になるのだが、その上下関係や優劣は無い。幼保連携型認定こども園に関する審議会については、新たに別立てで設けることもできるが、児童福祉を司る外部機関が乱立してしまうので、同じ役割を持つ機関に整理した方が良くだろうと考え、部会という形で提案させていただいた。その結果、支援会議の中に部会として置く形になるが、法律に基づく審議会である観点から言うと、それぞれ立ち位置は同じということになる。

(会長)

部会の委員については、改めて委嘱状が出るのか。

(事務局)

委嘱状をお渡しする。

(3) - ① 「作業の手引き」に基づく、教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて

「作業の手引き」に基づく、教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

アンケート調査によって、私立幼稚園の預かり保育、新制度では一時預かり事業という名前になるが、この実態が分かって大変ありがたかった。このようにニーズが多いことを踏まえ、新制度移行後、一時預かり事業について十分な担保をお願いしたい。

(会長)

量の見込みに関する高松市の具体的な案は、次回会議で出てくるのか。

(事務局)

今回は、国が示した「作業の手引き」に基づくデータをご報告したものであ

## 会議経過および審議結果

る。先ほどご説明した本市の考え方を踏まえた、量の見込みの案について、次回会議でお示しする予定である。

(委員)

1 ページの人口推計について、0 歳から 1 歳になる時に人口が増える推計が出ている。過疎化が進んでいる中、高松市は増えるということでのよいのか。

(事務局)

今回の推計は 5 年間に限ったものだが、社会増を踏まえた結果である。

(委員)

1 号認定について、下限時間を 48 時間・64 時間で推計しているのはどういうことか。

(事務局)

国が示した量の見込みの算出方法では、フルタイム、パート、パートの中でも長時間・短時間など、家庭類型を 8 つのタイプに分けることとされており、そのためには下限時間を決めなければならないので、今回、2 通り示している。下限時間を 48 時間と 64 時間にすることにより、2 号、3 号の見込み量算出だけでなく、1 号認定の見込み量にも影響してくるため、48 時間と 64 時間で推計しているということである。

### (3)－② 子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告書について

子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告書について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

0 歳児～5 歳児の合計と全体の合計は、合わなくてよいのか。どの質問を見ても合っていない。

(事務局)

無回答など、年齢が把握できない場合があるので、全体の数字と合わなくなってしまう。

(会長)

回答者全員が全ての質問を回答していればいいが、回答漏れがあると集計できないものがある。例えば全体のデータとしては 5,000 件返ってきていても、男女合わせると 4,800 件など、数字が合わないことがあるのだろう。ただ、資料を見た人が疑問に思わないよう、それについての記述は必要だと思う。

(委員)

51 ページに、育児休業給付や保険料免除の仕組みの認知状況について、また、65 ページに、相談機関の認知状況・利用経験について、調査結果が出ているが、アンケートにより、これまで知らなかった仕組みを知ることができたのは、とても素晴らしいことだと思う。

(委員)

質問項目が多いので、当初、削ることも検討したが、アンケートの結果、制度や相談機関等について知るきっかけになったことは、私も良かったと思う。

最近、ベビーシッターをネットで検索して子どもを預けた結果、その子が亡くなってしまふ事件があった。一時預かり等の事業もあるが、ネットで検索して知らない人に預けるしかない状況の方も含めて対応できるよう、子育てをめぐる環境を安心・安全なものに整備していくことが必要だと思う。次代を担う子どもの健やかな成長を支援していくことが、この会議や行政の目的だと思うので、より一層、力を入れていってほしい。

(委員)

自由意見のところで、障がい児を受け入れてほしいという意見が、保育所、幼稚園、放課後児童クラブ、小学校、中学校、高校と、それぞれ出ている。意見を

## 審議経過および審議結果

出す人数は少なくとも、やはり重要なことだと思う。このニーズを受けて取り組んでもらえればありがたいのだが、どう生かしていくか、考えがあるか。

(事務局)

まだ議会の議決前ではあるが、新年度事業として、幼稚園・保育所における発達障がい児の支援を予算に上げている。また、放課後児童クラブについては 24 年度から、障がい児対応支援の専門員が各クラブを巡回しており、新年度には拡充していくよう計上しているところである。事務局には、教育委員会や保健センターなども含まれているので、その他の事業についてもそれぞれが持ち帰り、アンケート結果を施策・事業に反映していけるよう検討してまいりたい。

(委員)

201 ページに、「結婚したら家事をする」「結婚したら育児をする」等について、意識調査の結果があるが、男女で分けたデータを出してほしい。分けた結果がどうかというのは重要だと思う。

また 176 ページについて、うつのサインがあった中高生が思った以上に多くて驚いた。とても重要な問題なので、次回以降の会議で取り上げて議論したいと思う。行政側も、どう支援していけばよいか検討してほしい。

(会長)

今回の計画は、高松市子ども・子育て条例にも基づくものであり、18 歳未満を対象として考えている。中高生に対する支援もとても大切であり十分検討を進めていけば、良い計画が作れるのではと思う。

### (3)－③ 子ども・子育て支援新制度講演会の開催予定について

子ども・子育て支援新制度講演会の開催予定について、事務局から説明した。委員からの意見はなかった。

### (4) その他

事務局より、次回会議について、現時点では、平成 26 年 4 月末～5 月の間に開催を予定しており、詳しくは後日調整するという事で提案し、委員全員が了とした。

その他、委員から特に意見はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以上